

地域で幸福に暮らす

—エイジング・イン・プレイスの条件—



「東京で暮らす中高年者の 居住満足度に関する調査」 の結果報告

2019年6月

研究代表者 実践女子大学人間社会学部 教授 原田 謙



ごあいさつ

2018年9月に東京都内の3自治体（墨田区、世田谷区、多摩市）に在住の55歳から84歳の方を対象に「東京で暮らす中高年者の居住満足度に関する調査」を実施いたしました。このパンフレットは、調査にご協力いただいた皆様のデータから、どのような結果が得られたのか、その一部をまとめたものです。

本調査は、家庭(第一の空間)、職場(第二の空間)ではなく、地域という「第三の空間」に着目しました。とくに、人生100年時代と言われるようになった今日、東京という大都市において幸福に暮らしていく条件、すなわち住み慣れた地域で年齢を重ねていく条件（エイジング・イン・プレイス：Aging in place）は何かを考えることは、ますます重要になってくるでしょう。

このパンフレットでは、地域集団への参加状況や人間関係の様相、孤独感や居住満足度に関連する要因、そして公共施設・サービスへの満足度にかんする調査結果が紹介されています。こうした調査を通じて得られた結果は、学術上の新たな知見の提供になるばかりでなく、高齢になっても住み続けやすい都市づくりを推進していく上で有益な資料になると考えております。

調査にご協力いただきましたことに心から感謝申し上げますとともに、本パンフレットをご一読いただければ幸いです。

Tama-shi

Setagaya-ku

Sumida-ku



地域集団への参加

—— 自治体、性別によって違うのか？

中高年者の地域とのつながりを、参加率が高かった3つの集団からみてみましょう。伝統的な地縁組織である「町内会・自治会」への参加率は、墨田区では50%を超えていましたが、世田谷区では4割を切っていました(図1)。同じ東京都内でも、だいぶ違いがあるようです。

「趣味・学習のサークルや団体」への参加率は、いずれの自治体でも女性の方が高くなっていました。とくに多摩市の女性の参加率は4割近くでした(図2)。

「同じ学校の卒業者の会、同窓会」の参加率は、とくに世田谷区と多摩市の男性で高く、30%を超えていました(図3)。年齢を重ねても、若かりし学生時代のつながりが維持されているようです。

しかし、今回調査にご協力いただいた方のうち、約4分の1がいずれのグループ・団体にも参加していませんでした。



図1 町内会・自治会への参加率 (%)

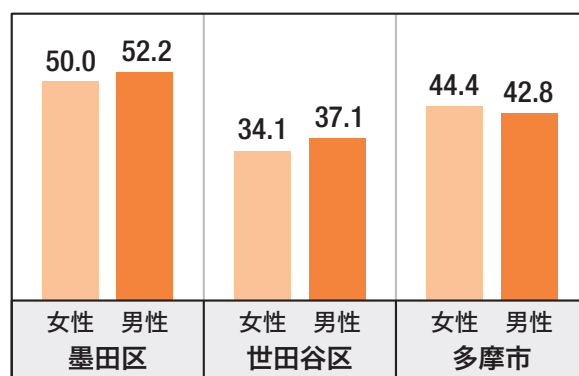


図2 趣味・学習のサークルや団体への参加率 (%)

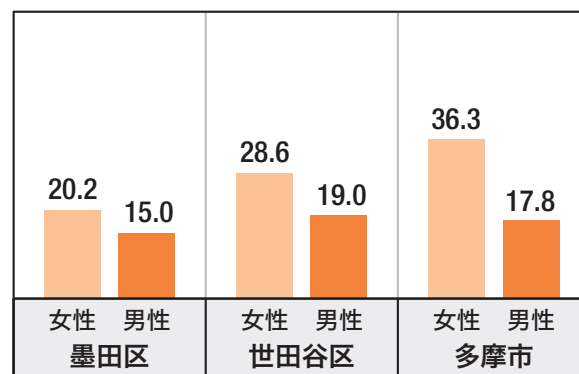
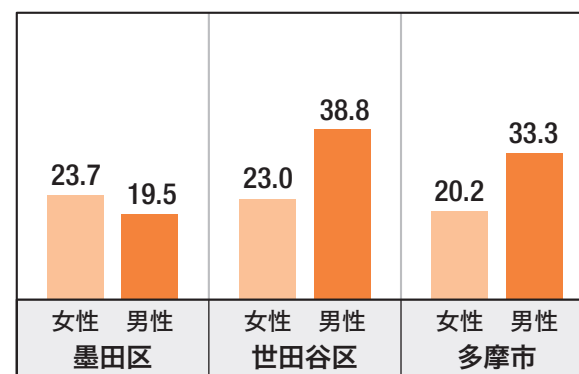


図3 同じ学校の卒業者の会、同窓会への参加率 (%)



中高年者の人間関係

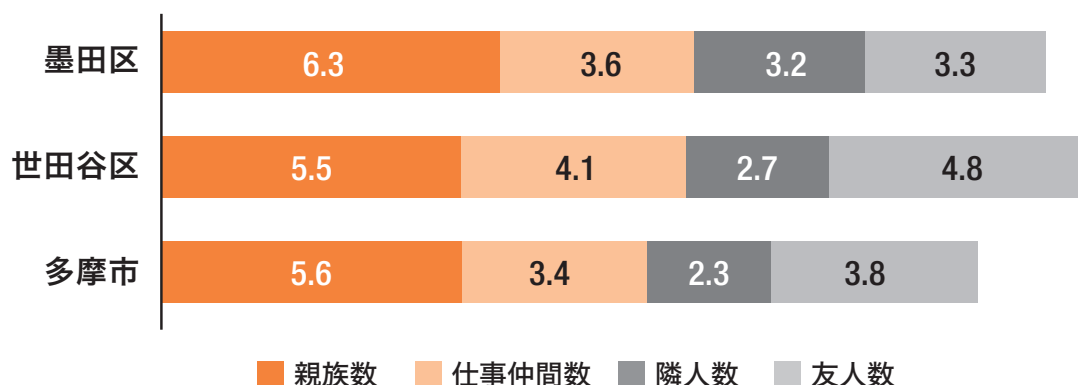
——自治体、年齢によって違うのか？

日頃から親しくしているネットワーク（別居の親族、職場・仕事関係の方、隣人、友人数）は、何人くらいでしょうか。自治体・年齢ごとにその平均値を算出してみました。

墨田区では、ほかの自治体にくらべて、親しい隣人数が多いことがわかりました。これは墨田区では、もともと自営業の方、そして

居住年数が長い方が多いことが関連しているでしょう。また世田谷区では、ほかの自治体にくらべて、親しい友人数が多い傾向がみられました（図4）。今日でも下町と山の手と呼ばれる地域差は、こうしたネットワークの構成といった側面からも確認できました。

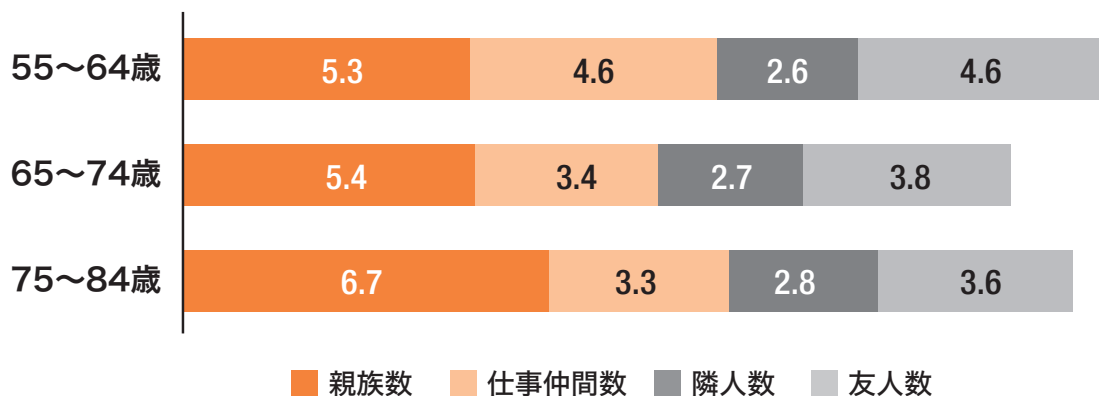
図4 自治体別の親しい親族・仕事仲間・隣人・友人数（人）



年齢別にみると、就業率が高い55～64歳では、ほかの年齢層にくらべて親しい仕事仲間数が多く、友人数も多い傾向がみられまし

た。そして、高齢期になるとネットワークに占める別居親族の割合が高くなっています（図5）。

図5 年齢別の親しい親族・仕事仲間・隣人・友人数（人）



現代都市における中高年者の心理

—— 誰が孤独なのか？

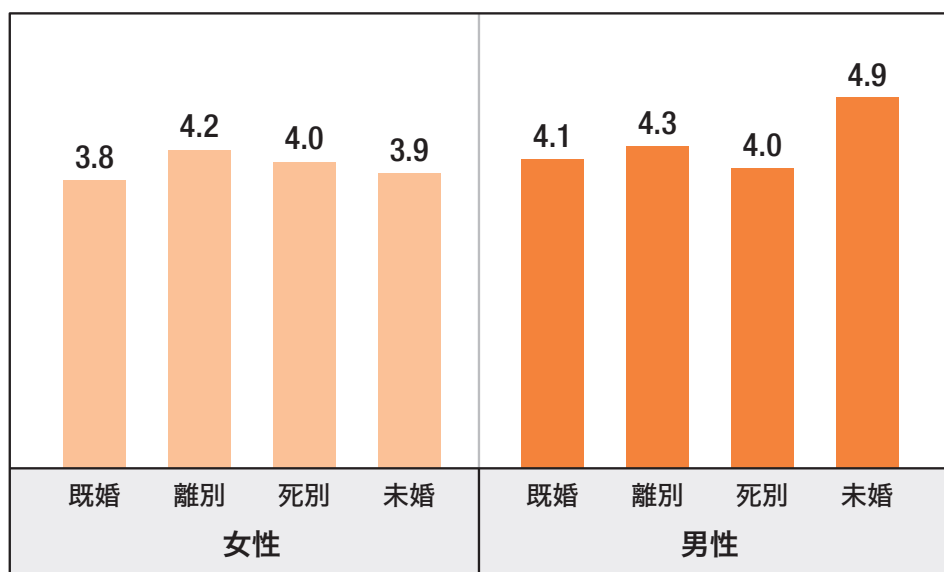
日本では、50歳の男性の4人に1人、女性の7人に1人が結婚していない非婚化が進んでいます。また「無縁社会」というテレビ番組が注目されたことを記憶している方も多いのではないのでしょうか。

中高年者の孤独感（人づきあいが足りない、疎外されている、孤立していると感じている程度）は、男性の方が女性よりも高いことがわかりました。とりわけ、一度も結婚したことがない未婚男性の孤独感が高くなっていました（図6）。さらに重回帰分析という手法を用いて孤独感に関連する要因を探ると、男性では、親しい友人数が多い人ほど孤独感が低くなっていました。そして女性では、親しい隣人数が多い人ほど孤独感が低くなっていました。

とくに男性の生涯未婚率が上昇傾向にあるので、今後も孤独のリスクは高まるかもしれません。しかし隣人や友人といった選択的なネットワークの構築が、孤独のリスクを低める鍵のようです。



図6 性別・婚姻状況別にみた孤独感（点）



注) 得点が高いほど孤独感が高いことを示します。

中高年者にとっての地域環境

——何が居住満足度を高めるのか？

今回の調査では、中高年者の居住満足度（愛着、永住意思、住み心地満足度）に関連する地域環境要因に注目しました。定住者が多い地点（町丁目）に住んでいる人ほど満足度が高いのでしょうか、また近隣の結束の強さや、治安の良し悪しは、満足度に関連しているのでしょうか。

分析の結果（図7）、「この地域の人々は信頼できる」「この地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」といった項目で測定した集合的効力感（collective efficacy）が高い地点

に住んでいる人ほど居住満足度が高いことがわかりました。さらに、空き巣やひったくりといった犯罪被害の認知が低い地点に住んでいる人ほど居住満足度が高かったのです。

集合的効力感とよばれる近隣への信頼と期待、そして治安の良さが、高齢になっても住みづけやすい都市生活において重要であるといえるでしょう。



図7 居住満足度に関連する要因

地域レベルの要因

集合的効力感の高さ
犯罪被害認知の低さ

個人レベルの要因

居住年数の長さ
持ち家

居住満足度

（愛着、永住意思、住み心地満足度の3項目を加算）

注)個人レベルの変数として性、年齢、生活機能障害、地域レベルの変数として各地点の持ち家率、人口の安定性(5年前も現住所に居住していた人口比率)も分析に投入した階層線形モデルによる分析結果。

公共施設やサービスの満足度

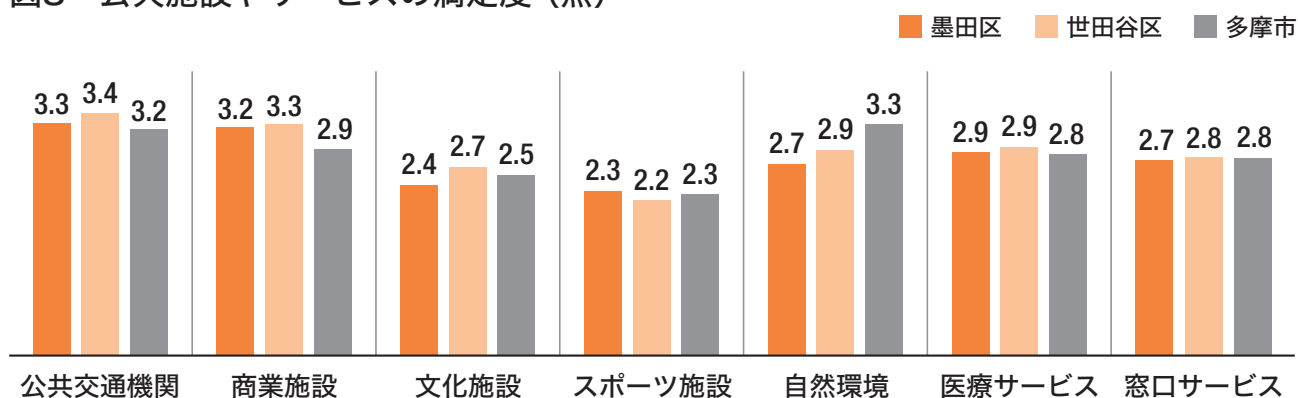
——自治体に求められていることは何か？

最後に、公共施設やサービスの満足度の結果をみてみましょう(図8)。いずれの自治体でも、バス・電車などの公共交通機関や、スーパー・コンビニなどの商業施設に対する満足度は高くなっています。一方、図書館・美術館などの文化施設や体育館・プールなどのスポーツ施設に対する満足度が低くなっていました。文化やスポーツといった「都市にお

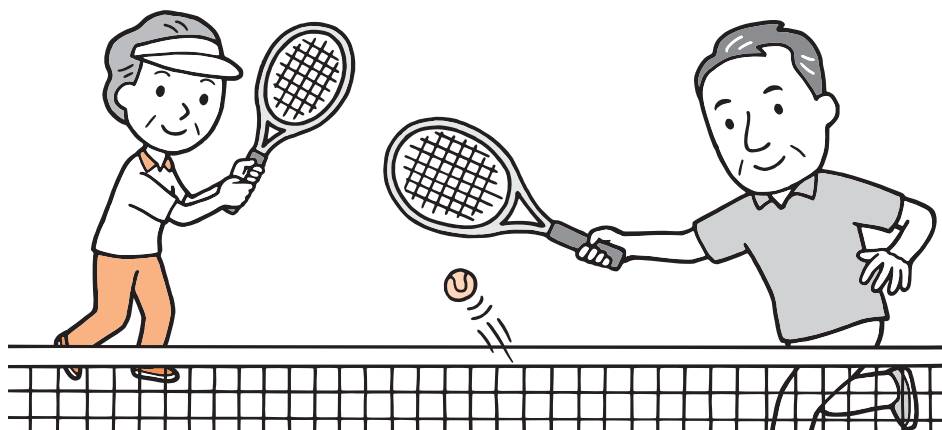
けるアメニティ(快適な環境)」の充実が、自治体に求められているようです。

自治体による違いをみると、多摩市では商業施設に対する満足度がほかの自治体に比べてやや低くなっています。しかし、多摩市では公園や緑などの自然環境に対する満足度がほかに自治体に比べて高くなっていました。

図8 公共施設やサービスの満足度(点)



注)得点が高いほど満足度が高いことを示します。





調査の概要

調査対象者は、東京都墨田区、世田谷区、多摩市に居住する55歳から84歳の男女1,800人を二段無作為抽出しました(各自治体から20地点、各地点から30人ずつ系統抽出)。調査方法は郵送調査法を用いました。回収数は820(回収率45.6%)でした。

回答者(820人)の基本情報

性別	女性:47.3% 男性:52.7%
年齢	55~64歳:30.2% 65~74歳:38.7% 75~84歳:31.1%
家族・世帯構成	配偶者あり:31.0% 一人暮らし:20.3% 同居子あり:33.5%
学歴	中学卒:10.9% 高校卒:35.2% 専門・短大卒:18.2% 大卒以上:35.7%
就労状況	現在働いている:53.0%
住居形態	一戸建て:36.2% 分譲マンション:35.4% 民間賃貸:10.7% 公団公社賃貸:6.4% 公営賃貸:11.3%
健康状態	良好(よい、まあよい、ふつう):86.3%

調査実施メンバー

原田 謙 (実践女子大学)
小林江里香 (東京都健康長寿医療センター研究所)
斎藤 民 (国立長寿医療研究センター)

研究助成

本調査は、科学研究費補助金(17K04152)「都市部における高齢者の居住満足度に関連する地域環境要因」による研究助成を受けました。

2019年6月発行

地域で幸福に暮らす
—エイジング・イン・プレイスの条件—
「東京で暮らす中高年者の
居住満足度に関する調査」の
結果報告

編集・発行/
実践女子大学人間社会学部
教授 原田 謙
〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
E-mail: harada-ken@jissen.ac.jp
ホームページ: <http://kenharada.la.coocan.jp/>

デザイン・印刷/
(株)ストリームス
〒112-0014 東京都文京区関口1-23-6
プラザ江戸川橋310
TEL. 03-5227-5561